

一般財団法人 英語教育協議会

平成31年/令和元年度（2019年度）事業報告

1. 英語教員研修事業

(1) ELEC英語教育研修会(The ELEC Seminars for English Teachers)

文部科学省後援のもとに、各1日制の研修会をELEC英語研修所にて下記のとおり実施した。

夏期：7月27日～8月16日（18日間） 受講者数：557名（前年533名）

冬期：12月24日～26日（3日間） 受講者数：48名（前年85名）

※春期：3月25日～30日（6日間） 未実施。

※政府からのイベント等自粛要請に伴い、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止。

合計：605名（前年803名）

なお、昭和32年以来の受講者累計は24,288名となった。

(2) 小学校英語教育workshop

文部科学省後援のもとに、各1日制の研修会をELEC英語研修所にて下記のとおり実施した。昨年同様年3回の実施とした。

夏期：8月17日（土） 受講者数：24名（前年62名）

秋期：10月26日（土） 受講者数：13名（前年25名）

冬期：12月27日（金） 受講者数：28名（前年25名）

合計：65名（前年112名）

(3) 英語授業改善のための専門家派遣（ELEC出前研修）

学校（団体）単位で研修講師を派遣し、授業経験・研修指導経験の豊富な英語教育指導者が学校を訪問。実際の授業を踏まえた指導助言・研修、フォローアップを行うもの。

今年度に関しては複数の問い合わせをいただいたが、先様のスケジュール変更や、実施予算上の理由などから双方の折り合いが合わず未実施となる。

(4) その他教育委員会主催 教員研修会支援事業

下記の教育委員会主催の教員研修会を委嘱され、実施した。

岩手県北上市教育委員会中学校教員研修： 1日（2.5時間）受講者数3名

宮崎県延岡市教育委員会中学校教員研修： 1日（6時間）受講者数40名

岩手県教育委員会高校教員研修： 1日（3時間）受講者数30名

公益財団法人東京都私学財団： 2日（14時間）受講者数341名

千葉県松戸市教育委員会中学校教員研修： 1日（6時間）受講者数14名

岩手県教育委員会高校教員研修 1日（3時間）受講者数21名

以上6件

2. 英語教員支援事業

(1) ELEC英語教育賞

2015年度から「ELEC賞」は「ELEC英語教育賞」として再構成され、「文部科学大臣賞」、「ELEC理事長賞」が授与されることとなった。授与式と特別講演会が毎年3月に開催される。今年度の受賞対象校は1校となった。

- 文部科学大臣賞：該当校なし。
- ELEC理事長賞：東京都日野市立日野第六小学校
受賞取組名：「教科化対応授業改革～実践的な聞くこと・話すことの指導を通して」

(2) ELEC英語教育賞授与式・特別講演会

政府からのイベント等自粛要請に伴い、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止。授与式のみオーディエンスを招待せず実施。

開催日時：2020年3月7日（土）

受賞校取組講評：明治大学教授 尾関 直子氏

受賞校代表：堀江 恒祐 主任教諭

(3) ELEC通信

英語教育の改革・改善と質的向上を目指し、日本の英語教育のあるべき姿を考える場として、専門家による評論や学校取組紹介等をELECウェブサイト上に不定期で掲載している。

2019年度で掲載した詳細は下記の通り。

学校取組紹介：3篇 エッセイ：3篇 評論：3篇 座談会：1篇

2019年度前半はサイトの更新や情報提供が十分ではなかったことから、専任担当を配置し、年間計画に基づき有益なコンテンツ提供のため月に1つは新しい評論やエッセ

イなどを掲載。

3. 一般研修等事業

(1) E L E C 英語研修所(The ELEC Institute)

令和元年度(2019年度) は以下のコースを開講した。

□総合英会話コース：

午後部 週1日コース A1-Mon (月) ・LA1-Thu (木) ・SB (土)

夜間部 週1日コース E1-Tue (火) ・E1-Thu (木)

□スキル・トピック別コース：

午後部 ムービークラス AM (金)

□日本人講師による基礎英会話コース：

夜間部 週1日コース OME (月)

□プライベートレッスン：

・学期制プライベートレッスン (一昨年度廃止したが、以前より継続中の生徒1名はそのまま実施) 週1回 木曜日 (11:15-12:00)

・非学期制プライベートレッスン

受講回数・曜日・時間等を学期の枠組みにとらわれずに決められる
レッスン (1レッスン90分)

令和元年度(2019年度) の研修所の延べ受講者数は以下の通りであった。

* () 内は2018年度

春 学 期 3 2 名 (5 2 名)

合 計 3 2 名 (1 9 5 名)

2019年度春学期の授業をもって研修所事業を休止した。

新規受講生は2名 (前年度12名) であった。

(2) 企業、大学向け英語研修

1) 企業向け英語研修では、既存、新規共に顧客企業の目的を確認し、ニーズに合わせた研修内容の構築、運営を行った。

江東区文化センター委託の英語講座については、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて日本人の「おもてなし」を意識した講座が引き続き人気を得ていた。特に地域の文化・歴史施設を英語で紹介できる講座は、好評を得ていた。

東京都「おもてなし講座」の実施内容も大変好評を得ることができ、その実績により、新たに中央区から、2020年度実施の新規講座を受託することができた。

2) 大学からの受託講座では、既存顧客の新規講座や新規顧客の講座において、顧客と調整を行いながら授業形態などの新たな試みを行った。また現存顧客について、収益の観点から見直しを行い、継続有無の検討及び委託料や方法について交渉を実施、収益率の改善を図ることができた。

(3) 英語教育ポータルサイト事業

英語教員のためのポータルサイト「えいごネット」の管理・運営。
英語教育の一層の充実を目指す教員のため、英語を使う機会の拡充や生徒の英語学習のモチベーションの向上、ALT・ICTの効果的な活用、英語教員の英語力・指導力の強化等についての情報提供を定期的に行っている。一番アクセスの多い「やさしく読める英語ニュース」は2週に1回更新を行っている。2020年3月以降、学校休業救済措置のため自宅学習教材を提供。教育委員会等からリンクの掲載要請があるなど、高い閲覧数を記録した。

4. 教材作成等事業

(1) 録音教材作成事業

令和元年度(2019年度)の売上は約1億9,800万円、前年比約1,600万円増で推移した。依然として出版社の出版点数の絞り込みや同業他社との競合により厳しい営業状況は続いている。

(2) 出版教材作成事業

令和元年度(2019年度)の書籍売上は以下のとおりであった。

日本語で話そう1	1冊	日本語で話そう3	1冊
日本語で話そう4	1冊		
マザーグース童話集	1冊		

合計： 4冊

5. 英語村事業部

前年度の2018年9月に開業した東京都英語村(Tokyo Global Gateway 略してTGG)は、2020年に入り、運営も安定化し、入場者数も順調に増える展開となった。2018年4月に締結されたTGGとの業務委託契約により、エレックは外国人スタッフの採用から研修、配置までを一手に引き受けることになっていたため、現地に配置された講師管理部長やベテラン外国人講師2名らをお台場の現地に常駐させ、業務にあたらせた。

しかしながら、株式会社TGGとしては、赤字基調から脱することができず、2019年の春になって、一体的運営を図ることで経営効率を高めたい、とするTGGからの要請により、エレック採用の外国人スタッフ全員をTGGへ転籍することになった。

6月以降、転籍のための準備作業が行われ、9月末日をもって、エレックの採用したフルタイム講師9名と固定給パート講師39名（転籍時の在籍者）の転籍が無事完了した。これにより、TGGからの業務委託費収入は途絶えることになったが、財団の体力を考えると、多数の外国人スタッフを業務委託契約で抱えることのリスクから解放されることにもなった。10月から年末まで現地に留まり、引継ぎを行ったエレック職員らの給与はTGG負担となった。

本事業は、入札段階から5社・団体のコンソーシアム体制で推進されてきており、その枠組みは引き続き維持されることになっている。当初からの役割分担で、エレックは外国人スタッフの教育・研修を任されており、そのために、ベテラン講師2名を10月以降も現場に配置しており、10月1日付でTGGとの間で出向協定を結び、出向に関する経費や出向者の身分などについて、明文化した。

2020年2月末から3月にかけて新型コロナウイルス禍が発生し、2020年末まで公立学校からの入場者が見込めない、という厳しい展開となり、TGGに転籍となった外国人スタッフも休業扱いとなったが、エレックから出向中の2名の講師は、TGG職員の身分でもあり、在宅勤務で今後の展開にそなえる準備作業を行っている。

事業報告の附属明細書について

平成31年/令和元年（2019年）度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しない。